

令和6年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立小野高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

○『学校経営・運営ビジョン』・・・【別紙】

○教育目標、重点努力目標事項等作成のねらい、意図等

県中地区全体の少子化が進行し、価値観の多様化等、社会の変化に伴い様々な教育改革が求められており、本校においても地域における存在意義を確固たるものとする必要性がある。生徒の大半は地元出身者であるとともに、地元小野町からの本校に寄せる期待は大きいいため、多岐に亘る生徒の進路希望にも応えながら、総合学科としての利点を最大限に活かし、教育活動全般について、一層の改善・充実を図る必要がある。

本年度においても、生徒の「夢をカタチ」にすべく『生徒の進路実現』を軸に、4本柱（基礎学力の向上・進路意識の早期高揚・豊かな心の育成・開かれた学校づくり）を重点努力目標とした。ここ数年課題として取り組んでいる「基礎学力定着を図る学習支援体制の確立」、重点的項目として地域連携を強化し、「生徒の地域理解、地域貢献ができる生徒の育成」を体系的に達成できるような取組を行った。

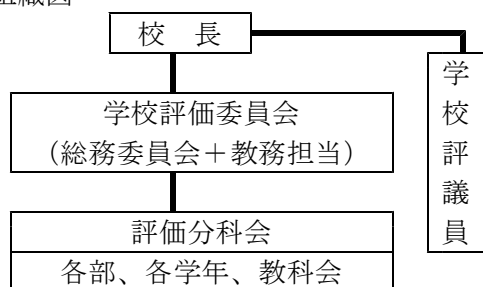
○組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

各部・各学年・各教科ごとに「昨年度の年度末反省」をもとに素案を作成し、教務部を中心に検討し、学校評価委員会（総務委員会）で審議を経て、『学校経営・運営ビジョン』案を作成した。職員会議での審議を経て、『令和6年度学校経営・運営ビジョン』を策定した。

また、昨年度から引き続き、「学校で養うべき資質・能力」を策定し、それを基に生徒の主体的な取組を実践させるため、各部、各教科で取り組み、生徒の探究的な学習活動を活発化できるよう1年次から3年次まで綿密な計画を立て、実効性ある組織体制で臨んだ。

2 校内組織体制について

組織図



学校評価委員会の役割

- 学校評価に関わる各種原案作成
 - ・学校評価計画細案（評価項目の検討、評価表作成）
 - ・調査結果に基づく結果原案及び改善原案（集計結果分析、評価のまとめ）
- 各種資料の収集、整理、保管と提供
- その他学校評価に関わること

○作成のねらい、意図

校長の指示のもとに学校評価委員会を設け評価項目を検討し、内部評価（自己評価）及び外部評価を実施し分析を行います。また、この委員会によって、評価活動を推進するとともに改善策を検討し、教育課程をより良いものにし、教職員の資質向上並びに本校教育の活性化を図ることになります。

なお、本校では学校評価委員会は総務委員会が兼ねるものとし、既存の校務分掌に基づく評価分科会を組織し、全教職員で評価・改善に努めることになっております。

3 自己評価年間計画について

○年間評価計画（外部評価）〔 ○学校評価委員会（総務委員会）◇職員会議 ◎実施項目 〕

| 期 | 月 | 計 画 内 容 | 外部評価員による外部評価 | | |
|--------|--------|--|---|---|--|
| 前 期 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織作り ○学校評価の検討(第1回) ◇学校評価の基本的な考え方の提示 教職員に「学校経営・運営ビジョン」 の周知及び評価計画概要の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部、各教科による評価 ・生徒の生活状況と指導の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に趣意説明文および「学校経営・運営ビジョン」配布 (PTA 書面開催) | |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の検討(第2回) 学校評価計画の細案検討ならびに 評価項目の検討① | | | |
| | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の周知(第3回) 評価項目の検討② | | | |
| | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学校評価アンケート実施要項の提示、評価項目の検討、Google フォームの導入、活用 ◎第1回学校評価(職員・生徒) ○学校評価の実施(第4回) 評価の集計、結果のまとめ、分析結果の検討と改善点の確認 ◎自己評価中間報告 ◇学校評価アンケート中間報告と評価問題点の整理と改善策の検討、成果と課題および改善策の共通理解 | | | <ul style="list-style-type: none"> 第1回学校評議員会（5月） ・学校評議員による授業参観等 ・「学校経営・運営ビジョン」「学校評価に関わる校内組織を含む自己評価計画」を学校評議員に提出 ・学校評価実施要項の検討 ・学校行事等、教育活動に対する評価(学校評議員等) |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ◇各部・各学年・各教科中間反省及びループリック評価の前期結果の共有 | | | <ul style="list-style-type: none"> 第2回学校評議員会（10月） ・学校評議員による授業参観等 ・学校評価(中間報告)実施案内の配布 |
| 後 期 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ◇第2回学校評価アンケート実施要項の提示、評価項目の検討 ◎第2回学校評価(職員・生徒) | <ul style="list-style-type: none"> 第3回学校評議員会（2月） ・学校評価(最終報告)及び学習活動全般に対する意見 ・「自己評価実践報告書」の作成 ・学校評議員による評価書の提出 ・評価結果の公表と説明 | | |
| | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の実施(第5回) 評価の集計、結果のまとめ、分析結果の検討と改善点の確認 ◇総合的な評価のまとめと報告 問題点の整理と改善策の検討、成果と課題および改善策の共通理解 | | | |
| | 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の修正及び検討 ◇次年度「学校経営・運営ビジョン」、グラウンドデザイン及びスクールミッション等の作成、周知 | | | |

II 評価結果の概要

1 実施方法等

(1) 実施計画

『学校経営・運営ビジョン』の重点目標について、以下の尺度に基づきアンケートを実施した。

| 評価 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|------|--------------|------------------|-------------------------|-------------------|
| 評価基準 | できた あてはまる | ほぼできた ややあてはまる | あまりできなかった あまりあてはまらない | できなかった あてはまらない |

第1回アンケート（中間）

| 評価者 | | 中間評価 | |
|-------|-----|-----------------|-------|
| | | 実施時期 | 実施方法 |
| 教職員 | | 9月3日（火）～9月9日（月） | アンケート |
| 教職員以外 | 生徒 | 9月3日（火） | 〃 |
| | 保護者 | 9月3日（火）～9月9日（月） | 〃 |

第2回アンケート（年度末）

| 評価者 | | 年度末評価 | |
|-------|-----|-------------------|-------|
| | | 実施時期 | 実施方法 |
| 教職員 | | 12月3日（火）～12月6日（金） | アンケート |
| 教職員以外 | 生徒 | 12月3日（火） | 〃 |
| | 保護者 | 12月3日（火）～12月6日（金） | 〃 |

(2) 実施しての反省

実施にあたって、昨年度からアンケート項目「学習指導1（タブレット端末、ICTの活用）」を加えるなど、本年度もアンケート項目の内容について学校評価委員会にて検討した。昨年度からの項目に変更を加えずに実施した。昨年度から Google フォームを回答ツールとして加え、集計の効率化を図ることができた。

2 アンケート及び回答数

第1回アンケート

| 評価者 | | 中間評価 | | |
|-------|-----|------|-----|--------|
| | | 対象者数 | 回答数 | 回答率 |
| 教職員 | | 32 | 32 | 100.0% |
| 教職員以外 | 生徒 | 88 | 86 | 97.7% |
| | 保護者 | 88 | 86 | 97.7% |

※休学者、長欠者を除く

第2回アンケート

| 評価者 | | 年度末評価 | | |
|-------|-----|-------|-----|--------|
| | | 対象者数 | 回答数 | 回答率 |
| 教職員 | | 32 | 32 | 100.0% |
| 教職員以外 | 生徒 | 88 | 86 | 97.7% |
| | 保護者 | 88 | 80 | 90.9% |

※休学者、長欠者を除く

○回答数の分析

一昨年、保護者の回答数が7割を切ったことが反省であったが、昨年度から紙媒体に併せて、Google フォームを使用するなど、工夫を加え、保護者からの回答率9割以上を維持できた。学校評価の重要性について、積極的な周知を行った結果である。本年度も高い回答数を得て、信頼度の高い数値を得ることができた。保護者から学校評価の結果をどう活かすのか求める声もあることから、学校評議員会での活用、学校HPでの公表はもとより、結果を生徒、保護者に返し、具体的な手立てを明示することも回答数を増加させると考えている。

3 評価基準について

各部、各学年、各教科における自己評価の尺度は、達成度を数値化できるものについては達成度割合で評価を予定しているが、今年度の年度末評価は下記の尺度に基づき自己評価を行った。

| 評価 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|------|------------------|-------------------|----------------------|----------------------|
| 評価基準 | 85%以上 よく当てはまる | 84～60% やや当てはまる | 59～25% あまり当てはまらない | 25%未満 まったく当てはまらない |

○反省

今年度の『学校経営・運営ビジョン』の重点目標に対して、各部、各学年、各教科において、その達成に向けた項目について、観点別に評価を行った。項目や質問事項を固定化することで複数年の傾向等が把握できるメリットがあるが、一部の評価項目および観点について、現状と課題に適した内容へ見直しを進めていきたい。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的・意図

昨年度の学校評価を基にして、年度始めに『学校経営・運営ビジョン』を策定し、『進路の実現』を軸にした重点目標を掲げ、達成に向けて努力してきた。また、一昨年度末に作成した、スクールポリシーも念頭に掲げながら教育活動を進めてきた。

年度末における本校教育活動の自己評価を通して、重点目標がどの程度達成されているかを把握するとともに、来年度の『学校経営・運営ビジョン』の策定、及び今後の教育活動の改善材料として行った。職員会議にて、教職員に周知し、それぞれの立場から評価結果について分析し、業務改善につながるよう指示を行った。

(2) 年度末評価結果の分析、及び結果状況

①令和6年度 年度末評価アンケート分析結果・集計結果【別紙】

②令和6年度 年度末反省 各部・各学年・各科

(3) 分析に基づく来年度に向けての改善点

今回の年度末評価での結果をもとに、改善できる点や新たに取り入れられる点について再検討し、来年度の本校教育活動に活かしたい。

主な課題は次の通りであり、改善に向けて取り組んでいく。

○学校生活の充実度、進路意識が、1年生で低い傾向にある。

○1年生の保護者は、進路についての相談が少ない、進路情報が足りないという意識を持っている。

○低学年ほど、課外活動や個別指導を受けているという意識が低い。

○1年生は、タブレット端末やICTの活用が少ないという意識を持っている。

- カウンセラーを保護者も活用できることを、1，2学年の4人に一人が知らない。
- 1年生の半数、2年生の3割が、ボランティア活動に取り組んでいないと回答した。

Ⅲ 広報の概要

1 目的や意図

『学校経営・運営ビジョン』を生徒・保護者に示し、学校・家庭・地域が三位一体となって生徒の健全育成と進路実現に向けて本校の教育活動全般の充実を図っていく必要がある。

本年度は、教務部の担当を中心に学校ホームページ、県教委 Note への掲載に務め、校内の学習活動について広く周知するよう努めた。

地元住民の多くが本校出身者であり、“地元の学校”として本校に寄せる期待は大きい。総合学科の特性を最大限に生かしながら、地域住民の理解や地域との連携のもと、学んでいく力の育成、集団や社会を形成していく力の育成、自らの人生を切り開いていく力の育成に、引き続き努めていく。

2 実施状況、配布対象、配布方法等

○実施時期・内容等

| 実施時期 | 実施内容 | 対象 | 配布方法 |
|------|---|-----------|-------------------------------|
| 4月 | P T A総会（書面開催） 『学校経営・運営ビジョン』の配布（ホームページへの掲載含む） | 保護者 | 生徒を通して配布 |
| 9月 | 『学校経営・運営ビジョン』に対する 中間アンケート | 生徒 保護者 | 生徒を通して配布 |
| 12月 | 『学校経営・運営ビジョン』に対する 年度末アンケート | 生徒 保護者 | 生徒を通して配布 |
| 3月 | 卒業式 P T A会報『あぶくま』の配布 （年度末報告） | 生徒 保護者 | 3年保護者に配布 1・2年保護者には生徒を通して配布 |
| 毎月 | 小野町広報 （各月の主な行事や大会報告） | 地域 住民 | |

3 実施しての反省

今年度もアンケートの結果、多くの項目について評価が高水準で維持しており、保護者の学校に対する期待や注目度が高いことを裏付ける結果となった。

今後とも、寄せられた学校に対する要望等を真摯に受け止めながら学校側の教育方針についても更なる理解を求め、学校・家庭そして地域が一体となつての教育活動を実践していく指針としていきたい。

Ⅳ 次年度に向けて

1 学校評価（自己評価）の特徴、成果等

外部評価として学校評議員から様々な指摘や助言等をいただくことで、新たな視点で本校の教育活動を改善していくことができた。福島県内でも少子化、価値観の多様化等、社会の変化に伴い様々な教育改革・学校改革が進められている状況で、本校も地域のニーズ

に応えながら総合学科としての特長を生かし、本校の目指す社会に有為な人材の育成に努めていかなければならないと感じている。

本年度は、小野町・石垣市交流事業「沖縄県立八重山農林高等学校との生徒交流派遣研修」での交流活動が、台風による欠航によって、中止となった。しかし、八重山農林高等学校生徒10名、校長、引率2名が令和7年1月に来校し、直接的な交流を図ることができた。語り部事業との関連付けを行いながら、交流とともに震災復興の県外への発信も実現することができた。

小野町連携事業6次化新商品開発での家庭クラブの活動は、これまでのように取組を進めている。本年度はさらに、新たに町内の外国人の若者との食文化を通じた交流を企画することができた。町内の高齢化、人口減少に反して、外国人数が増加傾向にあり、その地域課題に目を向けた取組である。

弓道部では、女子団体が県新人大会で優勝し、全国大会出場するなど、生徒数が減少する中でも、充実した活躍を見せてくれた。

本年度も、このような活動を広く発信するとともに、ホームページの充実や中身のある学校パンフレットの作成、さらには公開授業や課題研究発表会に多くの外部の方に来校いただき、開かれた学校を押し進めてきた。

さらに、基礎学力の定着と向上を目指した学習支援事業「学習くらぶ」も小野町と連携を図りながら実施することができた。生徒一人一人が、学習に主体的に取り組む活動を念頭に置き、全体指導・個別支援体制を確立し、本校の学びの質を高める取組となった。

昨年度同様、本年度の3学年も就職の内定状況が良好であった。個々の生徒が自らの意思で動けるよう指導を積み重ねてきた結果である。

今後とも、地域に根ざした教育活動を実践し、積極的な情報発信を進め、地域に開かれた学校づくりを実践していきたい。

2 次年度に向けての課題、改善点等

令和8年度から船引高等学校との統合が計画されている中で、最後の学年が本校を受験する。生徒数が減少傾向にある中で、本校を希望し入学する生徒には、総合学科ならではの多様な学びを活かして、知徳体の伸長を図り、それぞれの個性を大切にできる教育に取り組んでいきたい。まさに、本校が掲げる「夢をカタチに」できる教育の実践である。

統合に向けた準備も同時に進めながら、県中地区唯一の総合学科校として4系列の特色ある教育活動を充実させるとともに、本校の強みを生かした地域と連携した取組や様々な交流活動を推進し、少人数でも社会性が高まるような学校行事の改善を図るなど、教育活動全般を見直し、工夫・改善を図っていく。